

令和4年 4月 1日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
上尾市立平方北小学校	上尾市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方北小学校ウェブサイト 令和3年度特別の教育課程の自己評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakatakita-elementaryschool/306970.html
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方北小学校ウェブサイト 令和3年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakatakita-elementaryschool/306970.html
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方北小学校ウェブサイト 令和3年度特別の教育課程の保護者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakatakita-elementaryschool/306970.html

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまでALTの配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週29コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成30年度から、小学校3・4学年で35時間を、小学校5・6学年で70時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校1・2年生においては、学校教育法施行規則第51条に定められる授業時数以外で、年間10時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とALTが自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的にALTと触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

ア 小学校1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活

科の時間を削減し、英語活動を実施する。

- イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。

- ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月1日

(4) 取組の期間

無期限

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・ 小学校第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・ 45分授業ではALTと連携し、英語で表現することに慣れ親しむことを目標としてコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・ 校内研修を年7回実施し、英語学習における留意点や評価について学び、教員の英語指導力の向上に努めた。
- ・ 歌やチャンツ、ゲームなどを通して、苦手意識のある児童にも英語で表現することの楽しさを味わえるようにした。
- ・ 児童がコミュニケーション活動する時間を多く設けて、コミュニケーション能力の育成に努めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、活動のやり方を工夫し、密集・密接を避けて活動できるようにした。
- ・ 日常的に英語に触れる環境にするため、定期的に英語の読み聞かせを行った。

- ・校内放送に英語を取り入れる等の工夫をした。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- (実施している
・実施していない)

<特記事項>

- ・学校だよりやホームページで活動の様子を知らせた。
- ・学校運営協議会で、英語教育の取組を紹介した。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の英語活動実態調査・意識調査の結果を分析すると、「本校は、積極的に英語活動を推進している。」の項目で、「よく思う」「思う」と回答した保護者は、低学年全体で、95.8%、学校関係者評価委員会では、100%であり、「登校中、子供たちが英語を話しているのを聞くようになった。」「英語活動は、今の子供たちに必要であり、これからも積極的に進めてもらいたい。」などの意見があった。このことから、本校の英語活動に理解をいただける環境の中で、推進に努めているところである。また、「本校の英語活動は、お子様のコミュニケーション能力の育成に役立っている。」という項目においても、87.5%の保護者の方に「よく思う」「思う」との回答を得たことから、英語活動への期待がうかがえる。

さらに、「お子様は、学校の英語活動の様子について話している。」という項目にも、70.8%と高い数値を表しており、児童の学校生活の中に英語が浸透しつつある様子が見える。

一方で、「お子様は、御家庭で時々英語を使って話そうとしている。」という項目に関しては、「そう思う」「思う」との回答は、66.7%、「お子様は、日本の文化に興味・関心を示している。」という項目に関しては、62.5%と、他の項目と比べると低い結果となった。身に付けた知識や技能を日常生活で生かすことについては課題があるといえる。ただ、「習った単語を使っている。」「英語でクイズを出している。」などの意見もあり、徐々に日常的に使う場面を子供同士で広げることも、今後、期待される。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験することができている。ALTも英語のみでコミュニケーションをとることに努め、

より児童の「英語で会話できるようになりたい。」という意欲を高めている様子が見られる。

また、ALTの問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、互いの考えや気持ちを伝え合うことができる児童が増えているとともに、コミュニケーション能力が着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。

さらに、校内放送や校内の掲示物にも英語の表現を取り入れたり、英語の読み聞かせを行ったりして、より身近により楽しく英語にふれる機会を設けている。英語の歌を積極的に取り入れることで、休み時間に口ずさむなど、日常生活の中で、児童の英語を耳にすることが多くなった。また、担任と子供たちのやり取りを英語で行ったり、校長先生と英語で会話をする場を設けたりするなど、英語を使う場面も多くなってきている。

一方で、まだ、語彙の獲得や英語の表現を使うことに苦手意識を感じている児童もいる。低学年の段階から、楽しく活動する中で、少しずつ「表現できた」という経験を積み重ねていくことで、苦手意識を減らして、中学年からの外国語活動、高学年の外国語につなげていく。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導案例及び教材の活用、また、市教委主催の研修を活用しながら、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。